

平成 25 年度は、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 おかむら やすじ
岡村 寧次 1884～1966年 》
—東京出身の陸軍大将—



停戦に関する協定（登録番号：中央-戦争指導重要国策文書-611）

岡村寧次大将は、明治 37 年 10 月、陸軍士官学校（16 期）を卒業後、関東軍参謀副長、北支那方面軍司令官等の要職を歴任しました。この史料は、昭和 8 年 5 月 31 日、河北省塘沽（タンクー）において、日本側代表の関東軍参謀副長の岡村少将と、中国側代表の北平分会総参議の熊斌（ユウヒン）中将との間で調印された「停戦二関スル協定」です。本協定は「塘沽停戦協定」とも呼ばれ、その主な内容は、中国軍は定められた線から「一律ニ撤退シ爾後同線ヲ超エテ前進セス」、日本軍は「概ネ長城ノ線」に撤収することなどで、これにより満州事変は一段落しました。その後、本協定の善後処理について日中間で話し合われ、日本は部分的に長城線以南の駐兵権などを獲得します（他に「停戦協定善後処理に関する申合に関する件」登録番号：陸軍省-陸満密大日記-S8-19-30）。



空襲被害調査報告（登録番号：本土-全般-176）

太平洋戦争中の昭和 17 年 4 月 18 日、岡村大将が北支那方面軍司令官のとき、空母に搭載した米陸軍の爆撃機が、東京などを初めて空襲しました（「ドーリットル空襲」）。この史料は、陸軍築城部が行った「ドーリットル空襲」についての「空襲被害調査報告」です。これによれば、4 月 18 日 12 時 20 分頃、米軍の爆撃機が、東京の尾久方面（現在の荒川区北西部）から高度 500m で進入し、重さ 1,775 グラムの「テルミット焼夷弾」と 227 キログラムの爆弾を投下しました。このうち焼夷弾は、「数十発ヲ收容物ニマトメテ投下シ落下途中ニテ開キ飛散スルモノ」でしたが、その威力は「大ナラス隣組防空群ノ活動ニヨリテ消化セルトコロ多ク」、「沈着ニ動作スル時ハ決シテ恐ロシキモノニ非ス」としています（他に「日本空襲二用ヒタル焼夷弾ニ就テ」登録番号：本土-全般-174）。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

- ※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断引用はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課
専用線：8-67-6522、6588（史料紹介コーナーのみ6668）
外線：03-3713-5912
FAX：03-3713-6149 E-mail：nidsnews@nids.go.jp
- ※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>